



写真⑦ 避難中継所（湖北体育館）
新型コロナウイルス自宅療養者対応



写真⑧ 避難中継所（湖北体育館）
医療救護



写真⑨ 避難中継所（湖北体育館）
救急搬送



写真⑩ 避難中継所（湖北体育館）
車両スクリーニング（避難退域時検査）



写真⑪ 避難中継所（湖北体育館）
車両除染



写真⑫ 避難中継所（湖北体育館）
避難中継所運営本部



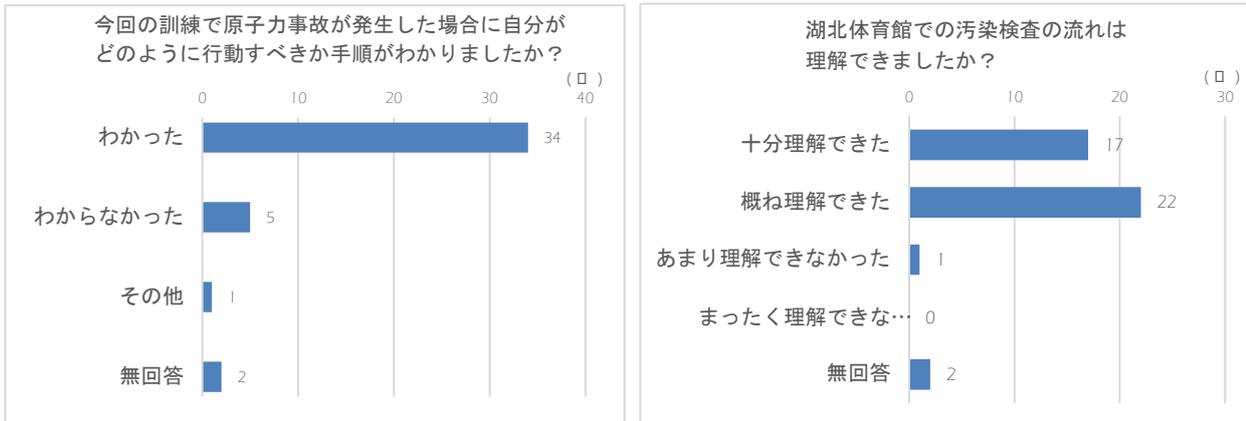
写真⑬ 原子力災害拠点病院（長浜赤十字病院）原
子力災害拠点病院への搬送



写真⑭ 原子力災害拠点病院（長浜赤十字病院）
原子力災害医療の実施

7 住民アンケート結果

参加住民に対し、今回の原子力防災訓練について、アンケートを実施した。概ね、原子力災害時の行動手順や汚染検査の流れについて理解が得られたと考えられる。



8 主な成果と課題

(1) 成果

- ・ 住民参加の中で、屋内退避、一時移転、スクリーニング（避難退域時検査）・簡易除染および原子力災害医療に係る手順の確認をすることができた。また、参加住民にも避難時の手順について理解いただけた。
- ・ 避難車両が多くなると、避難中継所（湖北体育館）前に車両が滞留してしまうという課題から、今年度は、避難中継所に進入する前に、近く場所にバス溜まりを設け、避難中継所と連携し、バスを誘導した。これにより避難中継所前のバスの滞留を避けることができた。
- ・ ゲート型モニタの時定数を15秒に設定し、幅を80cm程度にする運用に今回変更したが、一人当たりおおよそ30秒程度で測定することができた。
- ・ 登山客等へのヘリコプター広報の有用性を確認することができた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の自宅療養者へのスクリーニング（避難退域時検査）方法を検証することができた。

(2) 課題

- ・ 一時集合場所（木之本小学校）の周辺道路が狭いことから、バスについては小型バスを使用し住民搬送が必要となった。
 - 一時集合場所の周辺道路の状況も勘案し、一時集合場所の追加・変更、避難手段やバス発着場所を検討する必要がある。
- ・ 各班の役割は伝わっていたものの、防護服の着脱場所やスクリーニング（避難退域時検査）記録表の記載台の場所、汚染検査前エリアと汚染検査後のエリアの別など会場全体のレイアウトの認識が全体的に不十分であり、混乱を招く場面があった。
 - 災害時には事前に、レイアウトなどを周知することは難しいことから避難中継所開設時に全体のレイアウト等について共有を図る。
- ・ スクリーニング（避難退域時検査）待機場所やその前において傷病者が発生した場合の対応について、どのように対応するか詳細には決めておらず混乱が発生した。また、傷病者用に車いすや担架なども必要と考えられる。
 - スクリーニング（避難退域時検査）待機場所でのトリアージが必要との声もあったことから、スクリーニング（避難退域時検査）待機場所やその前において傷病者が発生した場合の対応方法について検討する。

- ・ 避難中継所とバス待機場所とのトランシーバーが不安定であり、聞こえない等の事態が発生した。
- ・ トランシーバーを1チャンネルにしているため、各班での共有したいことと本部に共有したいことが混線し、班内のコミュニケーションがうまくいかなかった事例が見られた。
 - ▶ トランシーバーと携帯電話を併用するなど通信手段について検討する。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の自宅療養者対応など新たな訓練項目については、どの班が対応するのかなど混乱が見られた。新型コロナウイルス感染症患者のスクリーニング（避難退域時検査）時に、防護服の着脱やGMサーベイメータの消毒等に時間を要した。
 - ▶ 今回の訓練結果を踏まえ、新型コロナウイルス感染症患者用の測定器を準備する、アイソレーションガウンを二重にするなど対応方法の改善を検討する。
- ・ 車両検査・除染班においては、検査と除染班を兼ねていたため、検査と除染を同時に実施することが困難と考えられる。
 - ▶ 車両検査・除染班内の役割を明確にできていなかったため、避難中継所運営要領に班長（1人）、車両誘導（2人）、ゲートモニタ読み取り（1人）、詳細検査（2人）、記録（1～2人）、簡易除染（2人）などの役割と必要人数例を記載する。
- ・ 今回初めて訓練に参加する要員も含まれ、会場の設営・運営方法を確認するための時間を要する場面などが見られたことから、今後も関係機関と連携し訓練を積み重ね、避難計画の実効性の維持・向上を図ることが重要。